

支部長挨拶（細氷第50号刊行）

この度、日本気象学会北海道支部の平成16年度第1回支部理事会において理事の皆様のご推薦をいただき支部長をお引き受けすることになりました。北海道支部の発展のために努力したいと思っておりますので皆様の御支援・御協力をお願い致します。

日本気象学会の目的は、「気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内及び国外の関係学会と協力して、学術文化の発達に寄与すること」であります。気象学の研究を盛んにし、世の中に研究や技術の成果を広く浸透させ、人々の生活がうるおいのあるものになるように努力することです。北海道支部は、この理念に基づき活動しております。

会員の中には研究分野、組織等が異なる様々な方々がいます。基礎的あるいは応用的な研究に従事している方、単独であるいはグループで研究している方、一般の研究者あるいは研究管理者の方々です。また、会員の所属する組織も、大学・教育機関、気象台等の行政機関、民間会社、さらには組織に属さない一般の会員もいます。様々な経歴やバックグラウンドを持つ会員の方々には、北海道における気象学の研究や学会活動についても様々な考え方があると思えます。異なる考え方を自由に交流することが学会活動の発展に繋がるものと考えます。学会活動の発展には、この他に、気象学の研究に対する住民の理解と支持が欠かせません。住民の参加する気象講演会、夏季大学講座等をさらに充実させ、気象学会を身近に感じていただくことが大切であると考えます。これらに関連して、本年度から北海道支部のホームページを開設しますので、会員相互の、また、住民とのコミュニケーションを深めるために活用してください。

会員の機関誌「細氷」は今回で第50号の刊行になります。機関誌の歴史は昭和32年7月に「北海道支部会報」の刊行から始まりました。その後、昭和37年1月に会報の名称を廃して「北海道支部だより」として新たに第1号を刊行しました。昭和62年7月の支部創立30周年記念に際して「細氷 (No.33)」と名称を変え今日に至っております。この間、気象学研究を取り巻く社会情勢も大きく変化し、北海道支部の活動も新しい展開がありました。第50号の刊行を記念として、これを機に支部活動の歴史を振り返り、将来の支部活動の形を展望してみても如何でしょうか。

学会活動の発展のために今後とも会員の皆様のご理解と御協力をお願い致します。

(社) 日本気象学会北海道支部
支部長 松尾 敬世
(札幌管区気象台長)